



Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



留学中のみんなから、中間レポートが届きました!



2019 FALL 発行



甲南大学国際交流センター

外国留学中間レポート 2019 FALL

目次

アメリカ	ピッツバーグ大学		
	文学部人間科学科	3年	2
	ウイバー州立大学		
	文学部社会科学科	3年	3
	ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム		
	文学部英語英米文学科	3年	4
	経済学部経済学科	3年	5
	ハワイ大学リーワードコミュニティカレッジ		
	文学部英語英米文学科	3年	6
	文学部英語英米文学科	3年	7
	サクレットハート大学		
	文学部歴史文化学科	3年	8
	サンディエゴ州立大学		
	マネジメント創造学部マネジメントコース	2年	9
	経営学部経営学科	4年	10
	ノースアラバマ大学		
	文学部歴史文化学科	4年	11
カナダ	ビクトリア大学		
	マネジメント創造学部マネジメントコース	3年	12
	マネジメント創造学部マネジメントコース	3年	13
	文学部英語英米文学科	3年	14
	経済学部経済学科	3年	15
イギリス	リーズ大学		
	マネジメント創造学部特別留学コース	2年	16
韓国	漢陽大学		
	文学部社会科学科	3年	17
	文学部社会科学科	3年	18
	東義大学		
	経済学部経済学科	4年	19
	法学部法学科	3年	20
	経営学部経営学科	3年	21
台湾	東海大学		
	文学部歴史文化学科	3年	22

ピッツバーグ大学（アメリカ）
文学部人間科学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年8月～2020年4月



早くもピッツバーグに来てから2ヶ月が経とうとしていますが、初めの1ヶ月は時間が過ぎるのが遅く感じましたが、ExamやQuizが始まってからは少し早く感じます。授業が開始日まではInternational studentsのためのオリエンテーションやWelcome Weekのイベントが沢山あり、日本や他の国の学生と交流を深めることができました。こちらの気候は気温が30度程あっても日差しがきついくらいで、日本の蒸し暑い夏とは比べものにならないほど快適です。私はキャンパスから徒歩30分程の所にあるアパートに住んでおり、日頃

はバスを使って学校を行き来しています。大抵バスは10分～20分遅れて来ること、土日は40分に1台しか来ないことは気をつける必要があります。学生証があればバスは乗り放題でキャンパス内にある殆どの博物館も無料で入れます。まだ勉強で忙しく博物館やピッツバーグを散策しに行ったりはできていないので、帰国するまでには是非行ってみたいと思います。

こちら大学では週に2-3回同じ授業があり、ExamやQuizは数章ごとにあります。課題ややらなくてはいけないことは多いですが、その分深く学べるので身につけていると実感できます。平日は殆ど朝から夕方頃まで授業があり、空いた時間に予習・復習しています。休日は時々Japanese Student Associationのイベントに参加するぐらいで殆ど勉強に明け暮れる日々です。最初は家で勉強していたのですが、家にいるとソファやベッドの誘惑に負けてしまい寝てしまうことが多々あったので、次の週からは学校で勉強するようにしました。学校では他の人が近くで勉強しているので勉強への意識が高まり、より効率良く勉強できています。初めはこちらの大学生活に慣れず、授業についていくのが精一杯でしたが、3週間目頃には自分から質問しに行ったり積極的に勉強に取り組めるようになりました。留学前は良い成績を取れるか不安でしたが、今のところ日本にいる時と変わらず、能動的に勉強に励めば成績はついてきているのでこれからもこの調子で貪欲に学び続けたいと思います。



ウイバー州立大学（アメリカ）
文学部社会学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年8月～2020年4月



ユタ州にあるウイバー州立大学に来て1ヶ月半が立ちました。ずっと待ち望んでいた留学生活が始まり、毎日の忙しさからもうそんなに経っているのかと驚きながらも、思い出せないぐらいたくさんの思い出がすでにたくさんあり、本当に充実した毎日を送ることができています。悩む暇もなくやってくる毎日と、大量の課題や予習・復習、それに負けないぐらい楽しみな週末の予定で1週間はあっという間です。

私はラッキーなことがたくさんあったため、スムーズにこちらの環境に馴染むことができました。まず、渡米前にウイバー州立大学に通う現地の生徒の方と事前に日本で友達になり、現地の情報を得ることや渡米してからの予定を少し立てることができました。6週間の留学プログラムで甲南大学に来ていた学生の方で、とても優しくフレンドリーだったため、不安をあまり抱かずにユタ州に来ることができました。また、Weber Japan Club というクラブに招待してもらっていたため、日本人で現地に通っている方との連絡も取ることができ、寮に必要な買い出しを手伝ってもらうことができました。もう一つは、ルームメイト全員がとても優しく、英語を勉強しているということをととても理解してくれていることです。私が日本から来たことを伝えると、アメリカについて様々なことを教えてくれたり、車を出して買い物や観光地に連れて行ってくれたり、みんな映画を見に行ったりもしました。全員が集まった当初に寮内のルールを確認し、洗い物や静かにする時間などについても話し合ったため、特にトラブルはなく毎日を過ごすことができます。生活は勉強に集中するためにも大事なことなので、安心して過ごしていることにホッとしています。



もちろん勉強は本当に大変で、平日は毎日図書館にこもりきりですが、週に2回の日本語の会話のボランティアで息抜きをしたり、学校から見える山の景色を見て気持ちを落ち着かせたり、とリラ

クスできる場所は多くあります。ユタ州は自然がとても豊かで国立公園も多く、他の国からの留学生もそれを目当てにこの大学を選んだ人もいるぐらい、自然に囲まれ、アウトドアアクティビティーも豊富です。現地生と仲良くするだけでなく他国から来た留学生と旅行やハイキングができる環境があるのも、この地域ならではの醍醐味だと思いました。残りの留学生活も存分に楽しみたいです。



ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ）

文学部英語英米文学科 3年

【奨励留学】留学期間：2019年8月～2020年1月



アメリカ・フロリダ州オーランドに到着し留学プログラムが始まり、約2か月になります。初めての海外、初めての親と離れての生活に最初は不安もありましたが、見るもの全てが新しく見たことのないものに溢れていてこれから始まる生活に胸を躍らせていました。初めの一週間は慣れないことが多く、何をするにも英語を使う環境で自分の英語力のなさを実感していました。私の住むオーランドには様々な人種の人々がいます。そのいろいろな国の発音の英語を聞き取る必要があるので、最初は何回も聞き返し、どうしても意味が分からないときは途中で諦めてしまうことも多々ありました。ですが、日が経つにつれどんどん耳が慣れてきていろいろな発音を楽しめるようになり、会話も弾むようになりました。インターンシップ先でもゲストと会話しゲストのことをもっと知れたり、様々な国からきた同僚たちと笑いあっている時は本当に英語を勉強していてよかったと思える瞬間です。

授業は週1回、アメリカのビジネスについて学んでいます。課題では、出された題について同じ授業を受けている人と意見交換をします。受けている生徒は日本人が多いですが、同じ日本人の中でも考え方や価値観が違うのでそれらを知ることによって自分の視野も広がります。また、授業ではグループワークや実践的な内容が多く日本では経験し難い授業スタイルで毎回とても新鮮です。また、アクティビティとして美術館を訪れたり、バスケットボールの試合を観に行ったりもしています。

この2か月間で学んだことは、諦めないことの大切さです。英語力の面では、初めのうちは自分の英語に自信がなく、口数も少なくなり、ただ話を聞いて頷くだけでした。ですが、この2か月間で聞き取れることを諦めないこと、拙い英語でも相手に伝わるまでしっかり話すことの大切さを学びました。また、自分の行動面に関しては、自分に今何ができるか、何が必要なのかを考え、積極的に行動に移すようになりました。分からないことがあれば自ら質問し、自分の意見はしっかり口に出さないと理解されないのがアメリカの文化です。自分を表現することの難しさも同時に学びましたが、日本では感じられなかった環境で自分の変えたかった部分が変わったと思います。あと残り約3か月となりましたが、まだまだ学びたいこと、やりたいことがたくさんあるので、しっかり吸収して帰国したいと思います。



ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ）

経済学部経済学科 3年

【奨励留学】留学期間：2019年8月～2020年1月



留学生活が始まってもうすぐ2ヶ月が経ちます。留学前は不安でいっぱいでしたが、フロリダに来てからは忙しく充実した日々を送っています。寮は日本人3人とアメリカ人3人の6人で生活しています。時間帯の遅いシフトが多いため、仕事が始まるまでの間に買い物や洗濯、料理を済ませ、休みの日には友達とレストランやパークに行っています。

授業は週1回、寮内でバレンシア大学の先生によるビジネスマネジメントの授業があります。同じプログラム参加者のみんなとイタリア人1人の20人ほどで受けています。また、毎週トピックに合わせて自分の意見をコメントする課題と1ヶ月ごとに自分で進めるオンラインの授業があります。美術館やバスケットボールの試合の見学など Cultural activity もあります。講義形式ではなくみんなが意見を言うことで授業が進んだり、自分で時間を見つけてオンラインで終わらせたり日本の授業とは違う部分があり面白いです。

仕事は週に5,6日、30～37.5時間以内で働いています。職場に私以外の日本人はいませんが、アメリカだけでなく中国、韓国、イタリア、ニュージーランドなど世界中から集まったプログラム参加者と一緒に働いています。仕事は Merchandise という役割でグッズやお菓子を売っているお店のレジとストックをしています。わからないことがあり質問するとみんな優しく教えてくれます。

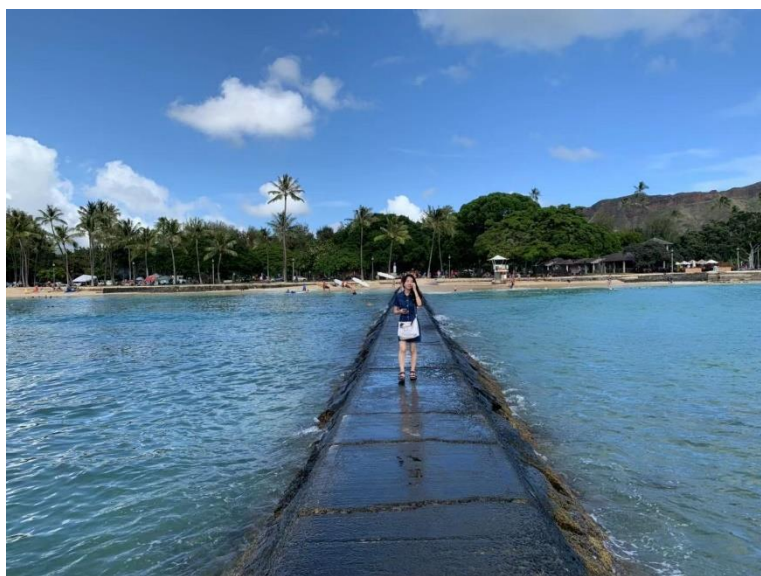
仕事を始めて1ヶ月以上が経ち段々と慣れてきましたが、毎日たくさんのゲストが訪れ、ポジションによって違うことをしなければいけないため、日々新しく学ぶことがあります。

自分の言いたいことが上手く伝わらなかったり、言われていることが理解できなかったりと自分の英語力に悔しい思いをすることもありますが、周りの人の優しさに助けられています。アメリカはフレンドリーな人が多く、ゲストとコミュニケーションを取るのが楽しいです。ネームタグを見て、私が日本から来たとわかると興味を持ってくれる人や、日本に行ったことがあると話しかけてくれる人もいます。ゲストに喜んでもらえるよう常に意識していますが、ありがとうと言われたときや、小さい子が笑顔になったとき私も嬉しくなります。

残り3ヶ月を切りましたが、あっという間に時間が過ぎていっています。そして自分の英語力がまだまだだと実感する日々です。悔いのないよう1日を大切に今しかできないこと、多くのことを吸収したいと思います。



ハワイ大学リーワードコミュニティカレッジ（アメリカ）
文学部英語英米文学科 3年
【奨励留学】留学期間：2019年8月～12月



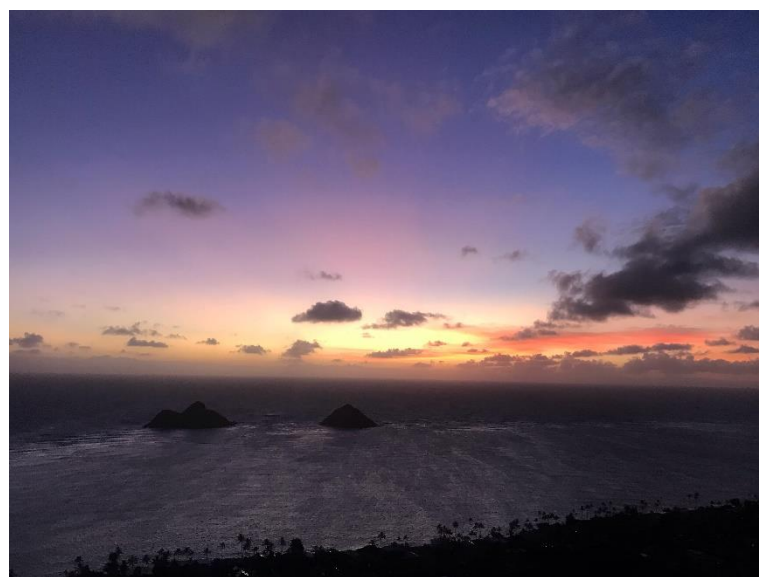
今まで留学先であるハワイ大学リーワードコミュニティカレッジでの学校生活がちょうど折り返しの今、今までを振り返ってみるともちろん日常会話や授業などを通して英語力の向上を少しずつ感じられるようになっていますが、自分の中で大きく感じるのは、積極性や行動力が日本で過ごしていた時よりも格段に上がったという点です。

ハワイ大学リーワードコミュニティカレッジは奨励留学でありながら、大学の授業も取ることが出来るというのがこのプログラムを選んだ理由の一つでした。私は、Art historyとHawaiian Studiesの授業を学部授業として受講しています。Art historyの授業では絵画や彫刻を通してその国や時代の背景を学んでいます。様々な国々の作品を扱うので、まるで世界中を旅しているような気分になって授業に参加しています。私がハワイに留学したら必ず取りたかったHawaiian Studiesでは、ハワイの文化・歴史、そこの土地で過ごす人たちの考え方だけではなくPacific Oceanの範囲の内容も含まれています。自分が過ごしている土地

のことを知ることが出来るのはもちろん、必ず小グループでのディスカッションがあるので現地の学生の意見を聞いて日本と比較したりするのが楽しいです。それぞれ予習、課題や授業内容についていくのはとても大変ですが、それらを通して知識や英語力が養われているのを感じます。

留学前は友人が出来るかどうかとても不安でしたが、学校生活が始まって授業やクラブ活動を通して様々な人々や出会いがあるので毎日とても刺激的で忙しく過ごしています。出会った友人やハウスメイトと休日などに、海やハイキングに行くことが多いです。海には甲南大学に留学に来ていた学生とカヤックをしに行きました。また、通っている学校の友人とはサンライズを見にハイキングに行きました。こちらに来て一番感じるのは、最初は緊張してうまく出来なくても、後悔しないように積極的に動くことが大切であり、そうすれば結果はついてくるということです。

ハワイは歴史的背景にも日本と深く関わりのある土地ですが、やはり慣れない環境で一人で過ごすのは大変でした。しかし、ハワイで出会った人たちの優しさと助けのおかげで毎日をととても充実したものに出来ています。残りの生活も悔いのないように、人生のなかでの最高の思い出にできるように過ごしたいと思います。



ハワイ大学リーワードコミュニティカレッジ（アメリカ）
文学部英語英米文学科 3年
【奨励留学】留学期間：2019年8月～12月



Aloha! ハワイでの生活も早いもので半分が過ぎようとしています。振り返ると、本当にたくさんの貴重な経験をして、あっという間の2ヵ月間でした。

こちらの大学では英語のクラスと現地の学生と受ける授業を2科目とっています。現地学生と受ける授業は予習、課題が多いです。また先生の話すスピードが速く、またディスカッションを必ずするクラスがある為、初めはついていけずかなり苦労しました。しかし、先生の助けもあり今ではかなりクラスに慣れてきました。まだまだ理解するのが難しいところや、ついていけないなと思う

時がありますが、予習復習、わからないことは聞く、を忘れずに残りの2ヵ月間頑張りたいと思います。またインターナショナルクラブに入部しました。このクラブでは留学生と現地学生との交流、ビーチクリーニングをはじめとするボランティア活動など様々な活動をしています。私はこのクラブを通して現地学生に限らず、他国の友人がたくさん出来ました。



私のホームステイ先は9人家族で毎日が賑やかで楽しく、困ったことがあれば優しく教えてくれて毎日とても感謝しています。

またホストマザーが中心となっている、エイサーという沖縄の伝統芸能のチームがハワイで活動しています。イベントはボランティアですべて担っているため「沖縄まつり」でのお手伝い、盆踊りの屋台で英語での受け答えなど、留学当初の目標だった、「ボランティア活動」にたくさん参加させてもらい、本当に貴重な経験をしているなど実感しています。またこの活動やホストマザーを通してたくさんの新しい人と会うことができました。

また留学前、甲南大学の学内国際交流プログラムである、Tomodachi ProgramやLanguage LOFTで友達になったハワイの留学生たちと日本では私が文化や日本語を教え、

いろんな場所へ出かけましたが、ハワイでは多くのハワイ文化を教えてもらい、またたくさん遊びに行き、海外の友達とまたこうして再会出来、本当にうれしいです。

課題や予習が多くて苦しかったこと、現地の授業についていくのが大変だったこと、積極的になれなくて悩んだこともありましたが、それでももっと学びたい、時間が経つのは早いと感じるくらい毎日充実していたのは周りの友人となによりもホストファミリーのおかげだと改めて思います。いろんな方たちに支えられて今の私がいるのだと本当に実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。留學生活、残り半分となりましたが悔いが残らないよう、当初の目標を忘れずに何事も積極的に取り組みたいと思います。Mahalo!



サクレットハート大学（アメリカ）

文学部歴史文化学科 3年

【認定校留学（JSAFプログラム FLAP+）】留学期間：2019年8月～2020年5月



アメリカに来て2ヶ月が経ちました。時間が過ぎるのはあっという間で改めて1日1日を大切に過ごしていかなければいけないと実感しています。

生活面ではホストファミリーと暮らしており、学校でも生活でも英語英語の毎日です。たくさん話してくれるホストマザーなので、私も学校での出来事や、遊びの内容などを晩御飯の時や時間の空いた時に話しています。課題などでも協力してくれて、プレゼンテーションの宿題が出た時には、聞き役になってくれて、そのおかげで準備万端で本番を迎えることができました。ホストマザーが仕事がなく、私も学校のない日の夜は2人で映画を見ます。その時も字幕をつけてくれて、楽しむことができます。ホストファミリーは本当の家族のように接してくれて、初めはとても戸惑いましたが、今では困ったことも嬉しかったこともなんでも共有できるようになりました。

学習面では語学学校に通っていて、正直学習内容はあまり難しいと感じませんでした。リスニング、スピーキングの面でとても苦労

しました。初めの1ヶ月は、友達が話していることも、先生が言っていることも全く理解できませんでした。そのため、聞き返したり、授業の後に先生に直接聞きに言ったりしました。その中で1人2人くらいは、こんなにもわからんの？英語もっと勉強した方がええで。みたいに言ってくる人はいましたが、もーそこは開き直って、おっけ、今からやるわ！といった感じすごし、1ヶ月経つ頃にはその子たちも含めほとんどの日常会話や、授業での理解もできるようになりました。友達や先生からもめっちゃ話せるようになったなあ、と言われて私も成長できているんだ、と感じとても嬉しく思いました。



残りの8ヶ月を有意義に過ごす為、私は1ヶ月ごとに目標を立てています。今月は発音や言語の面に力を入れていこうと思いました。ネイティブな発音に近づくため早く話そうとせず、発音に意識して話すことを心がけています。また、自分の中で単語力が足りていないと感じたので、先生に相談し、教材をかり、少しずつ勉強しています。この留学生活で精一杯勉強し、精一杯楽しんで最高のものにしたいと思っています。

サンディエゴ州立大学（アメリカ）
マネジメント創造学部マネジメントコース 2年
【認定校留学（JSAFプログラム FLAP）】留学期間：2019年8月～12月



マネジメント創造学部2年、サンディエゴ州立大学に認定留学中の西田はるかです。私がサンディエゴに住み始めてから約2か月が経過しました。サンディエゴの気候は日本と比べて雨がめったに降らず、比較的温暖な気候です。もう10月ですが、まだまだ半袖で過ごしています。私は認定留学生として、サンディエゴ州立大学の語学学校で英語を学んでいます。学校には中国、台湾、韓国などのアジア人の他にも、サウジアラビアやクウェート、トルコ、スイス、ブラジルなど様々な国から来た生徒がいてたくさんの国の人たちと

話す機会があり、彼らとの普段の会話も英語力の向上に繋がっています。

授業はもちろんすべて英語で行われます。先生が話す英語は文法的であり、はっきりと発音される方が多いのでアメリカへ来て1か月でほぼ聞き取れるようになったものの、ネイティブの方たちとの普段の会話にはまだ苦戦しています。ちょっとした雑談などの中には文法の教科書では習わないような省略形やスラングなどが多く含まれており、少しでも英語を話すので、リスニングがとても難しいです。スピーキングについては留学前と比べて、頭の中で英語を並べて文法を考える前より先にとっさに英語が口から出てくるようになった気がします。ですが、文法を間違えてしまうことが多々あるので、文法の勉強も大切です。外人と会話をする中で、発音が正しくなかった時に相手に言葉が通じないことがあるので、発音の練習も必須です。ネイティブの方たちと会話をする機会を増やすことが一番の英語上達の道だと考え、私はネイティブの方たちと留学生の交流の場であるMeet Upというコミュニティに毎週参加しています。



アメリカに留学に来て、様々な人種の方と話す機会がありたくさんの価値観に触れる事ができました。残りの2か月を悔いのないよう精いっぱい勉強に励み、そしてアメリカ生活を楽しまたいです。

サンディエゴ州立大学（アメリカ）

経営学部経営学科 4年

【認定校留学（JSAFプログラム FLAP）】留学期間：2019年8月～12月



私がアメリカに留学してから、約2ヶ月が経ちました。アメリカに着いて間もない時期は、異国の地で過ごしていくことに、自信がなくナーバスな状態になっていましたが、ホストマザーから頂く心遣いや、現地の人々の大らかさ、そして同じ修学先の友人に非常に救われたと感じています。当初は英語を使い会話をするに対して、とても神経質になっていました。特に文法や発音に自信がなかったので、後ろめたさを感じてしまい、上手く話し出すことが出来ませんでした。しかし、私が感じているよりも、現地の人々や他国から来ている留学生は私の英語をさほど気にしていないと気づきました。そうして、口籠もっている時間は無駄だと感じ始めてからは、積極的に間違いを気にせず、たくさん話すようにしています。また私のホームステイ先は私を含め、7人の日本以外の留学生がいるため、英語を活用する時間は

比較的多いと感じています。

友人に関しては、ほとんどの友人が他国からの留学生です。私の修学している学校は、中国・台湾・韓国・サウジアラビアの方が多いです。母国によって英語を話す時のアクセントに母国の癖がでてしまうので、互いに正しい発音を探求するなど、勉学にも勤勉な方が多いように思えます。

また休日の過ごし方としては、先ほどの友人達と出かけることが多いです。私の住んでいるサンディエゴは海が近いので、カヌーやサップをしたり、ビーチに行くことが多いです。

出来るだけ日本では経験できないようなことをしたいと思っています。

残りの約2ヶ月間の過ごし方としては、細かな文法と発音に重点を当てて学習していきたいです。英語を日常の中で活用していくことに、抵抗感や恐怖感は大分払拭され、日常会話は問題なくネイティブの人々と話せる程度ではあると感じています。今はさらにネイティブの人々と日常会話だけでなく、込み入った話もできるようになりたいと思っています。英語を使用的に自信の伝えたいことを話せるようになりたいと思っていますので、短く的確に伝わるよう心がけたいです。



ノースアラバマ大学（アメリカ）
文学部歴史文化学科 4年

【認定校留学（JSAFプログラム SAP）】留学期間：2019年8月～2020年5月



UNAに留学して1ヶ月が経ちました。私がUNAに留学した理由は英語の語学力を上げることと現地の歴史を学ぶことです。しかし、現地で生活していくうちに学問以外にも留学の意義があると思いました。それは日本人の感覚にはない価値観や暮らし方があるということです。現在、私はUNAのRiceHallという寮に住んでいます。私の部屋は二人部屋です。部屋にはベッドと物置とクローゼットしかありません。私のルームメイトはインドの学生です。この寮にはサウジアラビア、中国、エクアドル、コンゴ等様々な国から

来た学生がたくさん住んでいます。それゆえ洗濯やトイレに行く際は部屋から出るののでいろいろな人と出会います。寮の共用の洗面所やトイレは汚く二人部屋で勉強に集中できない時もあったのでルームチェンジをしようと考えたのですが寮に住んでいる人に会うと名残惜しいと思ったので今セメスターはこの寮に住もうと思っています。

興味深い点を一つ紹介します。それはルームメイトの生活感です。私はルームメイトと部屋を半分に分けて生活しています。私のクローゼットや物置の周りは服や、本、飲み物等がたくさんあるのですが、ルームメイトの物置の周りは物がほとんどなく寝具もとても質素なもので寝ています。私は現地で散髪を50ドルでしましたとルームメイトに伝えると、ルームメイトに驚かれ、地元のインドでは散髪は4ドルでしてくれると言われ私も驚きました。また、私のルームメイトの地元は平均気温50度の地域だったのでこの寮の気温に適しておらず現在風邪を引いています。他国の生活の様子を見たり聞いたりするとそれぞれの国には様々な価値観や暮らし方があるのだろうと興味深く感じました。



留学先の大学周辺は自然が豊かでとても田舎です。電車やバスなどの交通手段がなくとても不便だと感じる時があります。大学からショッピングモールまでのバスは週に1日しか走っていません。ですので私は現地で自転車を買いました。自転車で30分ほどで大型のスーパーや、ショッピングモールに行けます。日本では見ることができない景色を見ながら走ることはすごく良いリフレッシュです。留学先の最近の天候は晴れの日が多く直射日光が強いですが、雨が降る日はものすごい量の雨が降ります。この点も日本では経験できないことだと思いました。



今セメスターの語学クラスは順調に進んでいます。平日朝9時から15時まで英語のクラスがあります。スピーキングやリスニングは難しく感じテストの点数はクラスを余裕でクリアできるまでのレベルではないと確認できました。留学をするにあたって協力していただいた教授、職員、友人、そして両親に感謝しています。日が経つにつれ授業も難しくなっていくので妥協しないことを心がけています。

ビクトリア大学（カナダ）
マネジメント創造学部マネジメントコース 3年
【語学プラス交換留学】 留学期間：2019年4月～12月



4月からビクトリアでの生活を始めて半年が経ちました。長いようでとても一瞬だったなと思います。このプログラムは3ヶ月の語学プログラムと1ヶ月半のサマープログラムと4ヶ月の交換留学の3つに分かれています。この半年で自分の中で変わったなと思うことを書いていきたい思います。

一つ目は他人と比べることをしなくなったということです。最初は勝手に周り比べ、落ち込むことが多かったのですが、夢だった留学に来れているのだから落ち込んでいる時間なんて勿体ない！と思うことが出来るようになりました。

二つ目は英語を喋ることに戸惑うことがなくなったことです。これは友達と喋っていくなかで気づいたことでもあります。確かにリーディングやライティングをする中で文法はとても大事なことだと思いますが、スピーキングはとにかく喋ろうとする気持ちが大事だと思います。文法はめっちゃくちゃでもとにかく話していたら皆が何かしら反応をくれるということに気づきました。実際に3ヶ月のプログラムが終わる際に先生から「本当によく喋るようになったね。」と言われ自分がどれだけ静かだったのか驚いたと同時に嬉しくなりました。また、日本人同士でも英語で喋ることに最初は多少恥ずかしさを感じていましたが、意識の高い友達が徹底して英語で話してくれていたおかげで何も感じる事がなくなりました。でもまだまだ発音が上手く出来ず苦戦しています。

三つ目はこのプログラムを通して今までたくさんの人と出会ってきて人見知りをする事がなくなりました。それは一つ一つのプログラムが短い期間なため戸惑っているうちに別れの時になってしまうからです。また、積極的に自分から話しかけたり、遊びに誘ったりしていく中で自分の英語も成長出来ると思いました。今でも語学学校で出会った友達とはメッセージのやり取りをしています。

9月からはビクトリア大学で専門科目を学んでいます。CUBEにいた時は学ぶことのなかった地理学や心理学を受講しており、語学の時と比べ物にならない程の語彙力の高さ、会話のテンポの速さに圧倒されてしまうことも多々あります。ですがせっかく現地の学生と共に勉強出来ている環境に感謝しながら残り少ない留学生活楽しみたいと思います。



ビクトリア大学（カナダ）
マネジメント創造学部マネジメントコース 3年
【語学プラス交換留学】 留学期間：2019年4月～12月

私はカナダのビクトリア大学へ留学生として来ており、現在で半年経ちました。ビクトリアで生活することには随分と慣れて、小さい町なので人との出会いが多く、充実した毎日を過ごしています。そして私は半年過ごしたビクトリアでの生活から様々な経験をしました。



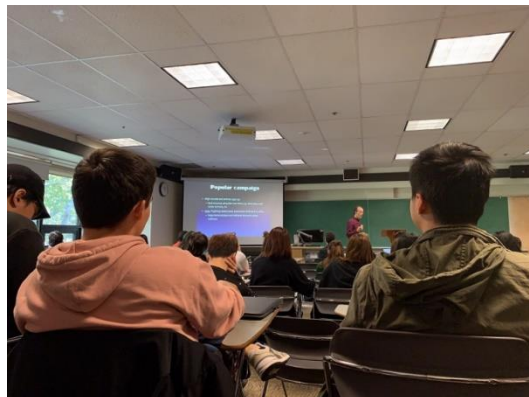
私がここへ来た最初の4月から6月の間は大学内にある語学学校で、エッセイやプレゼンテーションなどを学ぶアカデミック英語の授業を受けました。上級者向けのクラスであった為、私にとって大変難しく、毎日授業の復習・予習と宿題に追われる生活で、

一度日本へ帰国したいと思うほど過酷な3ヶ月を経験しました。週一回のプレゼンテーション、エッセイ提出、週末前のテストがあり、ある程度の英語ができる前提で授業は進んでいき、ついていくのに必死な日々でした。しかし、そんな生活を乗り越えることができたのは、クラスメイトや学校の友達との楽しい時間のおかげでした。私は幸いなことに、学校が始まってすぐに沢山の友達を作ることができ、一度も同じクラスになったことのない人とも仲良くなることができた為、学校に行くだけで彼らから元気を貰っていました。私が厳しい生活に慣れず落ち込んでいた時も、いつも話を聞いてくれる韓国人の友達や、明るく場を和ませてくれるラテン系の友達、同じ苦境を共に乗り越えたクラスメイトとは一致団結しより強い絆で結ばれ、忘れることのない一生大切な友達となりました。

そしてプログラムが終わると、次に私は夏季の六週間プログラムを受けました。この授業はアカデミック授業とは全く異なり、スピーキングやカナダの文化を学ぶことを重視した内容で日常生活に役に立つ英語を学びました。新しく来たクラスメイトとも仲良くなり、また、夏季の間は大学内にある寮で過ごしたのでとても良い経験になったと思います。



そして、9月からはビクトリア大学の交換留学生として現地の生徒たちと授業を受けていて、私は Pacific Asian Studies を専攻とし、アジアの歴史や中国語を学んでいます。日本でも受けれるような講義ではありますが、アジア圏外の大学ではどのようにアジアについて学ぶことができるのかに興味を持ち受講しています。先週、中間試験が終わりましたが、先生のまとめているノートやパワーポイントから勉強するのはとても大変でしたが、同じ授業を受けているカナディアンや中国人の生徒とも仲良くなることができたので、お互い教えあって勉強していました。このような経験はこれから一生ないと思うので、今の時間を満喫したいという事と、この留学期間中に英語を思う存分勉強して帰国するのが目標なので、日々挑戦して頑張っていきたいと思っています。



ビクトリア大学 (カナダ)
文学部英語英米文学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年8月～12月

初めての海外での長期滞在ということもあり、楽しいことはもちろん、つらいことや落ち込むこともたくさんありましたが、これまでの留学生活についてご報告させていただきます。

・語学プログラム

初めの3週間はビクトリア大学内で留学生を対象とした、英語力向上のための授業を受けていました。留学生はアジア人のみで、日本人が8割以上を占めていたため、私の通っていたクラスは15人中14人が日本人、残りの1人が韓国人でした。この授業では英語の文法や、語彙などを中心に学びます。その中で二人組のペアを作り、スピーキングの練習も同時進行で行うといった授業形式でした。授業は午前中に終わるため、午後にはビクトリアツアーや、他の留学生との交流会などに自由に参加することができました。

語学プログラムのオプションツアー(Buchard garden)



・ビクトリア大学での授業

9月から授業が始まり、私は英作文、人類学、日本の歴史の3つの授業を履修しています。どの授業も、私のいる学部では学んでいなかったことに触れることができ、毎日が新鮮で、1日1日がとても早く感じられます。英作文の授業では、日本では学ばないような細かい英作文の規則について、日本の歴史の授業では、『となりのトトロ』で表現されている日本の仏教観について、など日本で学んだ視点とは別の視点から学ぶことができ、どれもとても興味深い授業になっています。一方で、一つ一つの授業から出される課題の量が多く、毎日課題に追われる生活になっています。また、その課題一つをこなすのにも時間がかかる上に、自分が思っていたよりも評価が低かったり、なぜここがダメなのか理解できなかったりと、日本では習わなかったことに苦戦することも多いです。



・ホームステイでの生活

本来大学内の寮で暮らす予定でしたが、半期留学ということで寮に入れず、フランス人でワーキングホリデー中のルームメイトと、ブラジル人のホストマザーとの三人で生活をしています。ルームメイトにはフランス語を教えてもらったり、初めて食べる卵料理を作ってもらったりと、異文化交流を楽しんでいます。

・最後に

昨日は笑っていたけど、今日は泣きそうになるということが、こちらに来てから何度かありました。しかし、そのたびに留学に来た目的を振り返り、終わった後の自分を想像すると、「明日」を元気で迎えることができます。残りの生活を無駄にしないよう、周りの友達に感謝しながら、今まで以上に頑張っていこうと思います。



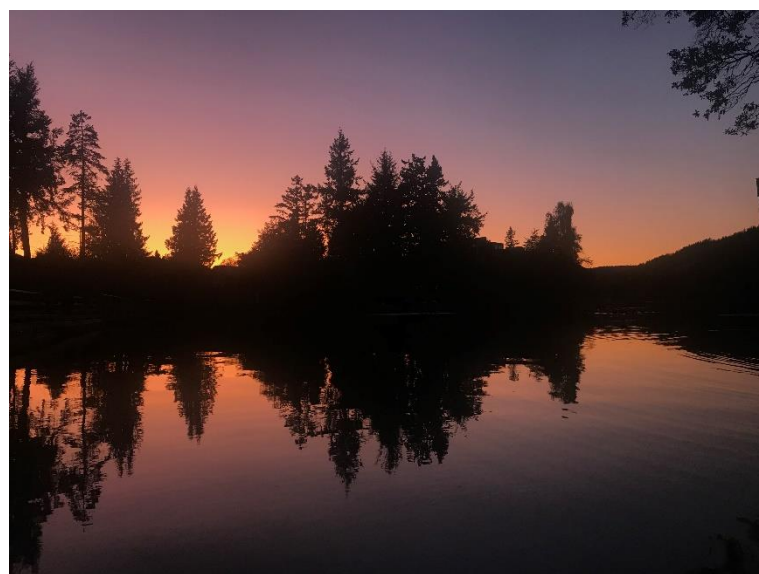
ビクトリア大学（カナダ）
経済学部経済学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年8月～2020年4月



留学のうちの初めの1ヶ月は語学学校に通い、9月からは学部の授業を履修しています。語学学校はとても簡単で、何も苦労することはありませんでした。しかし、カナダでの生活に慣れるきっかけ、また多くの友達を作るきっかけとしてしては、本格的に授業が始まる1ヶ月前にビクトリアに来ることができて良かったと思っています。その大きな理由として、学部の授業が非常に大変で、毎日勉強に追われているということがあります。正直なところ、これほどまで勉強が大変になるとは全く予想していませんでした。そして、それと同時に、勉強がこれほどまで面白いと感じるとも、全く思っていませんでした。

今学期はマクロ経済学、英語、Gender Studies、Pacific and Asian Studiesの4つの授業を履修しています。言語を変えて、自分の専門科目を履修するというのはとても面白いです。カナダの経済学部生がどのような姿勢で授業に望んでいるのかなど、自分自身と比較することで、自分自身を見つめ直す良いきっかけになります。また、Gender Studiesは私が留学をしたいと考えたきっかけの科目でもあり、毎回とても刺激を受けています。ディスカッションで自ら発言するというのもとても大変で、辛い思いをすることの方が多いです。難しいトピックであるとはいえ、話の輪に入れない自分をとてつめめに感じることもしばしばあります。Pacific and Asian Studiesでは、主に第二次世界大戦以降の日本の歴史を学んでいます。私たちの義務教育では、戦時中に日本が行った残虐行為などは詳しく語られません。私は高校の歴史を学んだ程度で、ほとんど日本の歴史について知識を持っていませんでした。カナダから、改めて自分の国の歴史を学ぶというのは、知らされてこなかった歴史的事実を突きつけられ、衝撃を受けることばかりです。

留学は決して楽しいことばかりではありません。人種や性別について、日本人であるということについてこれほどまで真剣に考え、悩んだのは初めてです。だからこそ、日本の歴史や甲南大学で学ぶことのできない科目を、異なる国で勉強することに価値があるのだと思います。留学の目的は人それぞれであるとは思いますが、私は今、学ぶことの楽しさが一番に感じています。自分の立ち位置が変わったことで、今まで見てきたものの見方が大きく変わりました。日本を出て自分の常識を疑ってみるということがいかに大切かを実感しています。残りの7ヶ月でさらに多くを学び、その学びを生かせる人間になりたいと強く願っています。



リーズ大学（イギリス）
マネジメント創造学部特別留学コース 2年
【交換留学】留学期間：2019年9月～2020年6月

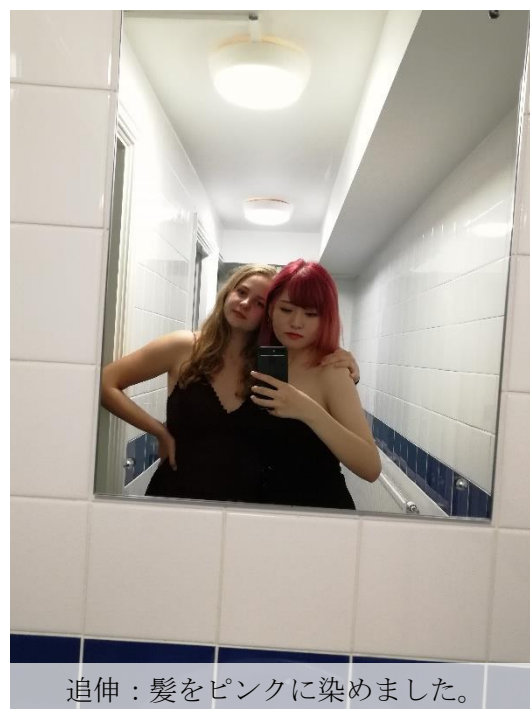


日本を発ちイギリスに到着して生活を始めて早一週間が過ぎました。未だ授業は始まっていないので学習面について書くことはないのですが、こちらで過ごしてきて感じたこと、体験したこと等を書いていきたいと思います。

私の住んでいる寮は Devonshire Hall といって、建物が少し古めのまさにイギリス、といった見た目の建物です。私の住んでいる棟は、全員で15人、様々な国から来た学生が集まっています。寮生

活を始める前までは、「もし私の食べ物を勝手に食べられたらどうしよう」「もし皆と仲良くできなかつたらどうしよう」等々、いろいろ想像して不安になっては心配になっていたのですが、今のところ私はこの寮を選んでよかったです。その理由は、まずとても国際的なこと。偏りなく国から色々な人々が来ているので、お互いの出身地について話したり、慣れ親しんでいる料理を作り合ったりなど、まさに異文化交流を楽しんでいます。また、私の寮に住んでいる人々は共同生活にとても協力的なことも挙げられます。この前は皆で共同生活のルールを決め、真夜中を過ぎたら音に気を付けること、皆の為にキッチンは綺麗に使うこと、等他人のことを考えられるのはとても良いことだと思います。更に、私にはイギリス人とスロバキア人のフラットメイトがいるのですが、彼らがとてもいい人たちだということも挙げられます。私たちは皆のご飯を交代で作り合い、暇な時はコモンスペースで話をし、映画を観る会を開く等、お互い歩み寄ることを大切にしています。

友達や生活の面では困っていることは一つもないのですが、自分の英語力がまだまだ低く、皆の話についていけない、話を聞くだけで入ることはできない、など深刻ではありませんが自分のスキルの低さが浮き彫りになり、少し落ち込むこともありました。ですが、私のフラットメイト



追伸：髪をピンクに染めました。

であるイギリス人の女の子にそのことを打ち明けると、彼女は「自分の知らない土地で自分の母国ではない言葉を使い生活するのは、とても難しいことだと思うし、私にはできることではない。あなたはすごいと思う。」と励ましてくれました。この励ましのおかげで、わからない言葉があれば遠慮せず必ず教えてもらい、逐一メモするようにし、より一層自分の英語力を高めるよう頑張っています。

漢陽大学（韓国）
文学部社会学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年2月～12月



韓国での留学が始まり7か月が経ち、暑い夏も終わり過ごしやすい季節になりました。留学に来た当初は聞き取りも話すこともままならなかったですが、最近では苦に感じる部分も減り会話を楽しむことができるようになりました。語学堂も3級から始め、今は5級の授業を受けています。クラスメイトは日本、中国、台湾、ドイツでほぼアジア圏のクラス構成になっています。5級の授業からは1週間に一度、討論の時間が設けられ、自分の主張を根拠まで含め話さなければなりません。討論が始まる前に肯定派と否定派に分かれ意見を整理し、自分から発言しなければなりません。こういった点で、

授業と日常生活で使う韓国語の違いを感じさせられ、もっと努力しようという気持ちにさせられます。また今学期からは語学堂とは別に一般の授業を受講しています。実際、韓国人の中に入り授業を受けてみると、語学堂の話すスピード、聞き取りやすさは本当に外国人向けなのだと思います。難しい所も多いですが、貴重な経験なので諦めずに最後まで受講しようと思います。韓国の学生は想像以上に勉強熱心で教授の話すべてを書き出したり、録音までしている学生もいます。勉強に対する姿勢はとても刺激になります。

生活面では旅行に行くことが多くなりました。連休があると地方の方まで足を運び、観光やその地域の食べ物を楽しんでいます。同じ韓国内でも少し地方の方まで足を延ばすと街の雰囲気や方言がソウルとは全く違ったものになるので楽しいです。あまり国土は大きくない韓国ですが、地域ごとの方言が多様で面白いなと感じます。行き残り留学期間も3か月を切り行ける場所も多くは無いですが、できるだけ多くの思い出を作りたいと思います。

留学が始まった当初は10か月ってすごく長いなと感じていましたが、友人たちと楽しい日々を過ごしているとすぐに7か月が過ぎてしまいました。今はもっと韓国語が上手になりたい、もっと韓国で過ごしていたいという気持ちが大きいです。残りの期間を悔いなく過ごしたいと思います。



漢陽大学（韓国）
文学部社会学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年8月～2020年2月

韓国のソウルにきて1か月になりました。ソウルはどこに行くのにも便利で、朝早くから夜遅くまで開いている店もたくさんあり暮らしやすい街です。来た当初は、言葉がうまく通じるか、また、親元を離れて暮らすことに不安がありましたが、韓国人のルームメイトがごはん屋さんや新しい場所につれていってくれたり、生活や勉強で分からないことや困ったことがあるとサポートしてくれ、韓国の生活にも慣れてきました。また、大学には留学生向けのクラブがあったり、メンタリングという30分間韓国人と話せる制度があったりと交流したり、韓国の文化を知る機会や韓国語を話せる機会が授業以外にもあり、私は韓国料理を作るクラブに入っています。このクラブは留学生向けのクラブなので、英語はもちろん、韓国語を勉強している学生も多くいるので、韓国語の練習にもなります。

授業は、毎日14:00～18:00語学堂での韓国語の授業と、金曜日の9:00～12:00に英語で開講されている現代の社会問題という講義を履修しています。

語学堂のクラスでは会話中心に、日常で使うような文法を学んでいます。毎日授業があり、進むスピードも速いので毎日復習や予習が大変ですが、私のクラスは中国、台湾、イギリス、オーストラリアなどさまざまな国籍の人がいて、いつも明るく楽しい雰囲気です。また、みんなとても勉強熱心で、間違いを直しあったり、わからないところがあればお互いに質問しあったりしていていい環境です。

英語での講義はイギリス、フランス、アメリカ、メキシコ、フィリピン、中国、韓国など様々な国籍の人が居り、価値観の違いや共通点、文化の違いなど初めて気づかされることが多く、とても興味深いです。この講義では、日本人が私一人なのでいつも日本代表として意見を求められます。

日本の政治についての考えや、日本の人々の政治に対する姿勢を聞かれたときにうまく答えられず、もっと日本について勉強しておけばよかったな、またもっと英語を勉強しておけばよかったなと後悔しています。

留学をして、環境の違いや、勉強で大変なこともあります。毎日が新しい体験でとても充実しており、留学してよかったなと感じています。残りの5か月間悔いのないように勉強も生活も充実したものにできるように、新しい体験や人と出会える機会に参加するなど積極的に行動していこうと思います。



東義大学（韓国）
経済学部経済学科 4年
【交換留学】留学期間：2019年3月～12月



韓国に留学に来て半年が経過しました。既に肌寒くなり、留学が終わりに近づいていると思うと少し寂しいです。留学に来た当初は友達と会話が成り立たなく翻訳機を使っていたのですが、今では韓国語だけで会話ができるまで成長しました。自分が感じるまで成長したのは嬉しいことですが沢山の苦難がありました。

2月末に韓国に到着し当初韓国語は聞き取れなく、会話が成り立たない状態でした。私はそれが悔しくて翻訳機や日本

語を使わないようにしできるだけ沢山のひとと会話するようにしました。その為には授業だけではなく、サークルや学科の友達との交流を積極的にし、韓国語で話す機会を増やすように心掛けました。また、様々な経験をしようと思い学校行事や授業での発表、ボランティアなど積極的に参加するようになりました。様々なことをするようになり韓国人や他国の友達と交流が増え、韓国語で話す機会も増え、韓国語の上達に繋がったと思います。徐々に聞き取れるようになり、話せるようにもなりました。しかし、基本的な言葉で話すことはできても上級の言葉は難しく今勉強中です。私が一番苦労したのは発音です。どうしてもネイティブのような発音ができなくて苦労しました。毎日一人で練習したり友達と電話で発音を確認したりし、また会話をしていて分からない事があればその度に質問をし、解決したらそれを反復して覚え自分のものになるよう努力しました。友達も分かりやすく丁寧に教えてくれるので本当に感謝しています。後期になり専門科目の授業を受講しています。経済の授業は専門的な用語が多くとても苦労しています。留学に来て中国人の友達や他国の友達がたくさんできたことから他の言語も挑戦してみようと思い英語と中国語を受講しています。どの授業も韓国語で行われるのでとても大変ですが留学をしないと経験できないことなので楽しみながら受けています。

留学生活も残り3か月となり限られた時間の中で色々なことを継続して行いたいと考えています。留学が終わってからも韓国人との交流が途絶えないように交流をし、深い関係を築きたいと思います。最後に、勉強と遊びのメリハリをしっかりとつけ、悔いの残らないように毎日を楽しみたいと思います。



東義大学（韓国）
法学部法学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年8月～12月



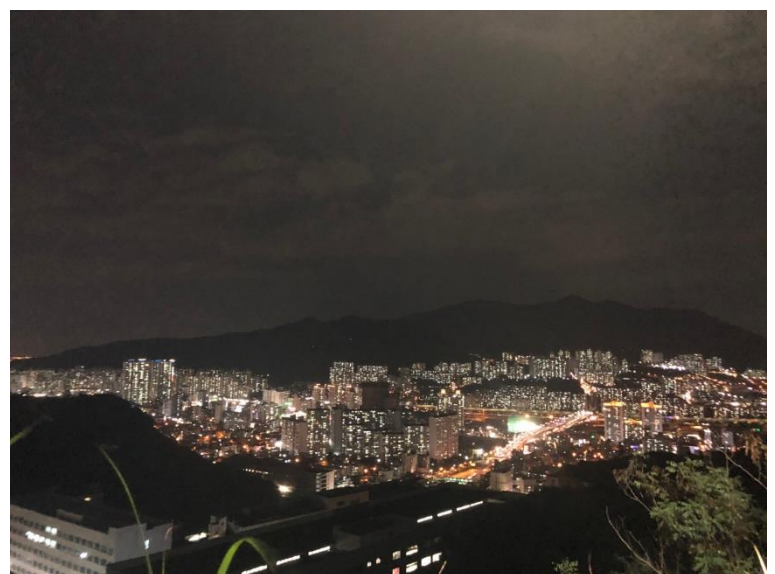
韓国に来て一ヶ月が経ちました。一ヶ月も経てば韓国での生活にも慣れ安定した生活を送っています。また、来たばかりの頃は韓国語になれておらず、理解しようとする事に必死でしたが、毎日韓国語を耳にするので、徐々に理解が出来るようになってきました。

学校の授業は、朝からお昼まで語学堂の授業を受け、週三回だけ日本語学科の授業と韓国語能力試験の授業を受けています。語学堂の授業はクラス分けテストによってクラスが決まり、自分のレベルに合ったクラスで授業を受ける事ができます。授業内容は、文法、会話、聞き取りに分かれていてそれぞれ教科書にそって授業が行われます。授業はすべて韓国語で行われるので毎日沢山の言葉を知れ、質問やクラスの他の国の人たちとの会話も韓国語なので、共通言語が韓国語な環境にいれる事がとてもいいことだと感じています。また、たくさんの国の人と一緒に授業を受けているので授業を受けながら韓国の文化以外にも色々な国の文化、習慣を知れて様々な国に興味を持てるよう

になれました。日本語学科の授業では、日本語を勉強している学生と日本語能力検定を内容勉強しています。この授業は週に3時間ある授業で、そのうち2時間は先生が行う授業、残りの1時間は生徒が発表を行います。その発表は私自身も行いましたが、韓国人の学生の前で韓国語を使って日本語の内容を話すことは、とてもよい経験になりました。

学校生活意外には、韓国人の友達や日本人の友達と一緒にカフェに行ったり、ごはんを食べに行ったり、クラスの友達と出かけたり、たくさんの人と出会えて、楽しい日々を送っています。

私は、留学が半期で12月末に帰るので、留学生活も残り三ヶ月もありません。最初の頃は1日がすごく長く感じる事もありましたが、最近はあっという間に過ぎます。なので、毎日無駄にせず、今しか経験できないことをたくさんして、韓国語でたくさんの人とコミュニケーションをとれるように心がけ、少しでも韓国語が少しでも上達出来るようになって、日本に帰れたらなと思っています。



東義大学（韓国）
経営学部経営学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年8月～12月



韓国、釜山に来て早くも1カ月が経とうとしています。出発前は海外でちゃんと暮らしていけるか、授業についていけるか、など不安要素が多くて心配していましたが、1週間ほど生活すると段々と慣れてきて今は安定した毎日を過ごせています。

学習面では平日の朝9時から12時50分まで語学堂の授業があります。授業では全て韓国語で行われますが、分からない単語などは先生が簡単に説明してくれるので問題ありません。最初は聞き取ること必死で集中し過ぎてしんどい時もありましたが、すぐに慣れました。授業の開始前日にテストを受けて20クラスほどに分かれるので難易度も自分

に合ったクラスで受けることが可能です。私のクラスにはベトナム人、中国人、モンゴル人、ポルトガル人、ウズベキスタン人がいて会話するときは韓国語で話すのでそれもとて勉強になっています。午前に語学堂の授業が終わって、午後は外国人留学生のために開講されているTOPIK対策の授業と日本語学科の授業を受けています。時間さえ合えば他の学部の授業も受けられますが、もちろん韓国人の生徒も受ける授業なので語学堂のように細かい説明もなく、スピードも速いので難しくはありますが、それもいい経験になり、韓国語に慣れる意味では成長できていると思います。

生活面でいうと学校内にある寮に住んでいて、坂がすごいので学校内を走っているバスに乗って移動しています。時刻表がなくいつバスが来るかわからないので、時間に余裕を持って行動する必要があります。部屋は二人部屋で、私は同じ大学の人と同じ部屋ですが、他の留学生を見ても大体同じ大学の人と相部屋になっています。各階に共同のトイレとシャワーがあって部屋にはついてないので少し不便です。寮の地下に食堂があって朝ご飯はそこで食べています。ラーメンを食べたり、デリバリーを頼むことも多いのですが、それは部屋に持ち込まずに1階にある休憩室という共同スペースで食べなければなりません。自炊も禁止されていてできないので外食することもしばしばあります。大学内にファストフード店やご飯を食べられる所も幾つかあるのでそこで食べることも多く、いろいろな種類のコンビニも至る所にあつてとても便利です。

同じ大学にいるチューターさんや違う国の友達も助けてくれるので生活に困っていることはありません。勉強も遊びも全力で楽しんで1つでも多くの経験と知識を持って日本に帰るために残りの3カ月も頑張ります。



東海大学（台湾）
文学部歴史文化学科 3年
【交換留学】留学期間：2019年9月～2020年6月



東海大学に留学して約1か月が経ちました。語学の授業が始まるのが台湾に到着してから16日後だったので最初の2週間は台中の名所を観光することに費やすことにしました。台中はバスが10キロ以内であれば無料なので交通面でとても便利です。台中のデパート新光三越や繁華街の逢甲夜市、高美湿地、オペラハウス、宮原眼科などを観光しました。また、東海大学付近には東海別荘という繁華街があるので学校から歩いて15分くらいで台湾の料理を堪能することができます。



語学の授業は先生が話す言葉はすべて中国語なのでとてもリスニングが鍛えられていると感じています。まだまだ中国語での雑談を聞き取るのは苦労しますがお店で食べ物を注文するとき店員さんが何を言っているのか理解できるようになってきました。語学の授業は定員8人の少人数クラスです。そのため生徒と先生の距離が近く、分からないところがあればすぐに質問することができます。クラスメイトの日本人と韓国人は聞く力が高いので授業についていくのが必死ですが、勉強

熱心な人達なのでクラスに行くと語学勉強のモチベーションが上がります。

寮は4人部屋で私の部屋は私を含む日本人2人と大陸から来た中国人2人です。ベッドと机と服を入れるタンスが個人で使うことができます。初めての寮生活だったので、留学に行く前はとても不安だったのですがルームメイトの日本人の子とは留學生活の悩みを相談し合ったり同じ部屋の中国人には分からない単語を聞くことができるのでとても良い環境だと思いました。

私は1回生と2回生の時に中国語の授業を取っていたのですが留学して思い知らされたのが語彙力の乏しさです。自分の思っていることを中国語に置き換えるのがとても難しく中国語で話すときによくもどかしい思いをします。留学に行く前にもっと中国語の勉強をしておけばよかったと思います。台湾の生活は残り9か月。どこまで語学能力を伸ばせるかは分かりませんが自分のペースで頑張っていきたいです！

